

「地震だ。地図を使って我が家に帰ろう！」 で使用した“災害時に徒歩帰宅するための地図のひな型”等に関するアンケート調査結果

1. アンケートへの協力について

危機管理研究会 神戸安全ネット会議では、災害時における業務継続等のために、「災害時に徒歩帰宅するための地図のひな型の作成」に平成 17 年度は取り組んでいます。その一環として、平成 18 年 1 月 25 日に開催したイベントが「地震だ。地図を使って我が家に帰ろう！～災害時帰宅困難対策 企業の業務継続のための検証イベント～」です。

このイベントの目的は、会員間でのワークショップやアンケートの内容を参考に作成した“ひな型”の内容等を検証することでした。57名の参加者に9班に分かれていただいて、実際に【東遊園地～国道2号～コープこうべ 生活文化センター】までの約8kmの距離を歩いていただきながら、各自に地図上での自分の位置の把握等行っていただきました。

神戸市民全体の危機管理能力の向上に役立てるために、全員にアンケートにてご意見をいただきたいとお願いしたところ、42名の方々にご協力いただくことができました。

ご協力いただいたみなさまにおかれては、お忙しい中、誠にありがとうございました。このアンケートで頂戴したご意見を参考に、「災害時に徒歩帰宅するための地図の作成方法」をまとめ、その中で改めて“ひな形”を作成・提示して参ります。

2. 地図の内容について

(1)「自分の位置を地図上で把握することはできましたか。」との設問に対して、いただいたご意見は次のとおりです。

- 〔 ・ できた。(41名)
- 〔 ・ 部分的に困難だった。(1名)

なお、「部分的に困難だった。」理由ですが、“町丁目地番”の標示が地図自体を分かりにくくしているとのことでした。

(2)“災害時に徒歩帰宅するための地図に必須の情報”のうち、実際に歩いてみて、特に有効だと感じた情報について5つまで選んでください。」及び「役に立たないと感じた情報をすべて選んでください。」との設問に対して、いただいたご意見をまとめた結果は次のとおりです。

()内の数字は、その情報を“有効だ”として選択された方の人数です。

【 】内の数字は、その情報を“役に立たない”として選択された方の人数です。

- ・ 区役所、警察・交番、消防署等公共施設(37)【0】
- ・ 交差点名(34)【3】
- ・ 避難所・広域避難場所(30)【0】
- ・ 町丁目番地(22)【1】
- ・ コンビニ(15)【6】
- ・ スーパーマーケット、ホームセンター等の商業施設(11)【1】
- ・ 道路名、通り名(9)【2】
- ・ 病院(8)【1】
- ・ 津波等、予め危険が予想される地点(8)【6】
- ・ ガソリンスタンド(5)【7】
- ・ 診療所(2)【8】
- ・ 防災行政無線拡声固局の設置場所(2)【6】

(3) 「重要な情報として追加すべき情報があれば教えてください。」との設問に対して、いただいたご意見は次のとおりです。

“ 駅 ” は必要な情報であるというご意見を多数いただきました。

また、“ AED が置いてある場所 (まちかど救急ステーション)” や “ 工事中の場所 ” は、何かの役に立つ場合もあるとのご意見をいただきました。

さらに、実際に歩いてみないと分からない情報ではあるけれども、“ 高架橋 ”、“ 高層建築物等 ”、“ 給水可能な場所 ”、“ 横断歩道の位置 ”、“ 歩道橋名 ”、“ 登路・下降路 ”、“ ガラス張りのビルなど、落下物の危険等が予想される場所 ”、“ その他、歩車道分離の無い道路等通行危険箇所 ”、“ 電気屋 ”、“ 自転車・バイク屋 ” については、把握しておけば非常に有効だというご意見を多数いただきました。

特に “ 自転車・バイク屋 ” については、それを把握していたことが、阪神・淡路大震災時に公共交通機関が止まった中、“ 人の足 ” より有効な移動手段を手に入れることに繋がったとのご意見をいただきました。

(4) 「特に確認しておくべき情報として扱ったコンビニ、ガソリンスタンド、避難所、広域避難場所、予め危険が予想される地点、情報を得るための防災行政無線拡声固局の設置場所について、何かご意見があればお聞かせください。」との設問に対して、いただいたご意見は次のとおりです。

- ・変動の激しさ等から、コンビニやガソリンスタンドの位置情報については、扱いを再検討すべき。(同趣旨のご意見を複数の方からいただきました。)
- ・防災行政無線拡声固局は、いつ流れるか放送が流れるか分からない。徒歩帰宅のために、その設置場所について、特に確認しておくことには疑問を感じる。

(5) 「目安をつけるために、縮尺やスケールを使えば “ スタート地点からの距離 ” や “ 目標までの距離 ” を算出することができます。実際に地図を利用して歩いてみて、目安として “ スタート地点からの距離 ” あるいは “ 目標までの距離 ” どちらを地図に記載するのが有効だと感じたかお聞かせください。」との設問に対して、いただいたご意見は次のとおりです。

- ・スタート地点からの距離 (10名)
- ・目標までの距離 (23名)

「災害時に徒歩帰宅するための地図の作成方法」をまとめるにあたって

・全体について

“ 区役所、警察・交番、消防署等公共施設 ”、“ 交差点名 ”、“ 避難所・広域避難場所 ”、“ 町丁目番地 ” は、(2) のとおり、有効とのご意見が、役に立たないというご意見を大きく上回っていますので、印刷する地図に必ず載っていないといけない、「必須情報」とします。

他方、“ ガソリンスタンド ”、“ 診療所 ”、については、役に立たないというご意見が、有効とのご意見を上回っていますので、「記載されていれば役に立つ情報」という扱いにとどめます。また、“ 防災行政無線拡声固局の設置場所 ” については、特に (4) で厳しいご意見をいただいていますので外します。

これら以外の情報については、「できるだけ記載されていることが望ましい情報」とします。

・“ 駅 ” について

多数いただいたご意見のとおり、駅では、公共交通機関の運行状況等重要な情報を入手することができるので、必須情報に加えします。

- ・“ AED が置いてある場所（まちかど救急ステーション）”、“ 工事中の場所 ” について
 これからまとめる「災害時に徒歩帰宅するための地図の作成方法」の中では、地図の作成に役立つサイトを一覧にして、参考資料としてご紹介します。“ AED が置いてある場所（まちかど救急ステーション）”等については、（ 3 ）のとおり、把握できれば何かの役に立つとのご意見をいただきましたので、把握が可能なサイトを、その中でご紹介します。
- ・“ 高架橋 ”、“ 高層建築物等 ”、“ 自転車・バイク屋 ” などについて
 （ 3 ）のとおり、“ 高架橋 ”、“ 高層建築物等 ”、“ 給水可能な場所の位置 ”、“ 横断歩道の位置 ”、“ 歩道橋名 ”、“ 登路・下降路 ”、“ ガラス張りのビルなど、落下物の危険等が予想される場所 ”、“ その他、歩車道分離の無い道路等通行危険箇所 ”、“ 電気屋 ”、“ 自転車・バイク屋 ” については、実際に歩いてみないと分からない情報ではあるけれども、把握しておけば非常に有効だというご意見を多数いただきました。
 そこで、「作成した地図を使って実際に歩いてみる」と歩く際には、これらの情報の把握に努めることを勧めます。
 なお、「自転車・バイク屋の位置」の把握については、阪神・淡路大震災の経験から出た意見である旨を明記します。
- ・コンビニ、ガソリンスタンドについて
 できるだけ印刷する地図に記載されていることが望ましい“ コンビニ ”の位置情報については、（ 2 ）のとおり、15 名の方が有効な情報として選択されている一方で（ 4 ）のとおり、変動の激しさ等を理由に扱いの再検討を求めるとご意見を少なからずいただきました。そこで、注釈を付ける等します。
 記載されていれば役に立つ“ ガソリンスタンド ”の位置情報についても、同様に注釈を付ける等します。
- ・“ スタート地点からの距離 ” もしくは“ 目標までの距離 ” の算出について
 （ 5 ）のとおり、“ 目標までの距離 ”の方が有効だとのご意見が多かったので、“ 目標までの距離 ”を地図に記載することを原則とします。

3. 携行品について

（ 1 ）今回のイベントでは、事前に送付したチェックリストを参考に、参加者各自で必要だと判断いただいた物を携行していただきました。「イベント当日、携行しなかった物をすべて選んでください。」「実際に歩いてみて、後から考えると携行するべきだったと思う物をすべて教えてください。」「携行したが、後から考えると不要だと思う物をすべて教えてください。」との設問に対して、いただいたご意見をまとめた結果は次のとおりです。

（ ）内の数字は、その携行品を“ イベント当日携行しなかった ”として選択された方の人数です。

【 】内の数字は、その携行品を“ 後から考える携行するべきだった ”として選択された方の人数です。

{ }内の数字は、その携行品を携行したが“ 後から考えたら不要だった ”として選択された方の人数です。

（ ）内の数字と【 】内の数字の差に、{ }内の数字を加えた結果を比較して、低い順に並べています。

- ・地図 （ 0 ） - 【 0 】 + { 0 } = 0
- ・筆記具 （ 0 ） - 【 0 】 + { 0 } = 0

- ・小銭 (1) - 【1】 + {0} = 0
- ・軍手もしくは皮手袋 (4) - 【4】 + {0} = 0
- ・タオル (3) - 【1】 + {0} = 1
- ・飲料水 (5) - 【4】 + {1} = 2
- ・携帯電話 (4) - 【1】 + {0} = 3
- ・雨具 (18) - 【7】 + {0} = 11
- ・携行食 (16) - 【4】 + {0} = 12
- ・帽子もしくはヘルメット (16) - 【3】 + {0} = 13
- ・携帯ラジオ (20) - 【7】 + {0} = 13
- ・防塵マスク (22) - 【7】 + {0} = 15
- ・ばんそうこう (20) - 【4】 + {0} = 16
- ・懐中電灯 (25) - 【9】 + {0} = 16
- ・携帯カイロ (23) - 【5】 + {0} = 18
- ・方位磁石 (29) - 【4】 + {1} = 26
- ・携帯ラジや懐中電灯等の予備電池 (29) - 【3】 + {1} = 27
- ・携帯電話充電器 (31) - 【1】 + {1} = 31
- ・杖 (35) - 【4】 + {0} = 31
- ・携帯トイレ (35) - 【4】 + {0} = 31
- ・金属製(もしくはプラスチック製)中敷 (33) - 【0】 + {1} = 34
- ・ゴーグル (34) - 【0】 + {0} = 34
- ・蛍光ジャケット (37) - 【2】 + {0} = 35

なお、後から考えると携行すべきだった携行品について、その理由ですが、

- 雨具について、レインコートを用意すれば、防寒対策にもなる。
- 携帯ラジオは、情報の収集に必要なだ。
- 防塵マスクは、阪神・淡路大震災の経験から、また、昨今話題のアスベスト対策からも必要なだ。
- 懐中電灯は、夜歩くのなら必需品だ。 等

が挙がっていました。

また、携行したが、後から考えると不要だった、携行品について、その理由ですが、

- 飲料水は重い。冬であり、8 km 程度の距離であれば必ずしも必要ではない。
- 方位磁石は、今回歩いたコースの用に、東西南北がはっきりしている地域に限れば不要だ。
- 予備電池や携帯充電器も重い。8 km 程度の距離であれば必ずしも必要ではない。

が挙がっていました。

(2)「携行品について何かご意見があればお聞かせください。」との設問に対して、いただいたご意見は次のとおりです。

まず、全体として季節や距離に応じて携行品は異なるとはいえ、各人に準備を促すには「もっと絞り込むべきだ。」というご意見を多数いただきました。また絞り込むために、例えば「情報、安全、行動に即して分類・整理してはどうか。」というご意見をいただきました。

次に、個々の携行品について、「懐中電灯はヘッドライトがよい。両手が空く。」といったご意見を複数の方から、いただいたほか、

- ・ タオルは手ぬぐい程度の大きさがよい。マフラーにもなる。
- ・ 携行食には、カロリーの高いチョコがよい。

といったご意見をいただきました。

さらに、夜暗い中をあるくとき、何かがあったときに備えて「笛」、ケガをしたときに備えて「薬」を携行品に加えたらよいというご意見をいただきました。

「災害時に徒歩帰宅するための地図の作成方法」をまとめるにあたって

(2)にあるように「もっと絞り込むべき」とのご意見を多数いただいたので、一人でも多くの方に事前に準備をしていただけるように、(1)で集計した順位を参考に、再度、携行品の整理・絞り込みを行います。

また、「懐中電灯はヘッドライトがよい。」といった、個々の携行品に関していただいたご意見も付記しておきます。

4. “心がまえ”及び“緊急時の情報収集手段等”について

(1)「“心がまえ”について、何かご意見があればお聞かせください。」との設問に対して、いただいたご意見は次のとおりです。

以下の内容を加えたらよいとのご意見をいただきました。

【平常時】

携行品を勤務先に準備しておきましょう。

平時から社内で同じ方向に帰る人たちで、もしもに備えて帰宅グループを組んでおきましょう。

災害用伝言ダイヤルの利用方法等について、家族間でよく話をしておきましょう。

平時から、非常時の情報収集手段を確認しておこう。

自宅までたどり着けない場合に、それぞれが一時避難する場所を、家族間等で確認しておきましょう。

日ごろ体をきたえておきましょう。

【非常時】

一人では帰らないにしましょう！

災害時には、落ち着いて情報の真偽を見極めましょう！

徒歩帰宅するときは、無理をしないで、避難所等で休憩しましょう！

(2)「“緊急時の情報収集手段等”について何かご意見があればお聞かせください。」との設問に対して、特にご意見はいただいておりません。

「災害時に徒歩帰宅するための地図の作成方法」をまとめるにあたって

(1)及び(2)の意見を、これから完成させる「災害時に徒歩帰宅するための地図の作成方法」に反映させます。

5. 地図の作成方法について

(1)「地図の作成方法について、何かご意見があればお聞かせください。」との設問に対して、いただいたご意見は次のとおりです。

「防災：明日は我が身」というサイト (http://184.tea-nifty.com/bousai/2005/04/post_3.html) に方角を知る方法が、掲載されているので是非紹介して欲しい。
高齢者等が字を大きくできる工夫をして欲しい。

地図を携行しやすくする工夫を紹介して欲しい。(距離が長くなる場合は、大きな道路沿いは、ポイントだけにしてもよいのではないか。)

各従業員等に災害時に徒歩帰宅するための地図を準備してもらう工夫として、例えば、通勤届けの作成・提出にあわせて、各人に地図を作成・提出させてはどうだろうか。あわせて、安否確認先、連絡先、避難先等も届出ってもらうようにすれば、各事業所が作る業務継続計画の有効性が高まるのではないだろうか。

「災害時に徒歩帰宅するための地図の作成方法」をまとめるにあたって について

これからまとめる「災害時に徒歩帰宅するための地図の作成方法」の中では、地図の作成に役立つサイトを一覧にして、参考資料としてご紹介しますので、その中に入れます。

について

完成した「災害時に徒歩帰宅するための地図の作成方法」は、インターネットで公開しますが、公開にあたっては、チェックリスト等の文字を、各自で必要に応じて大きくできるようにワードファイルの形にします。

について

地図を作るうえでの工夫として“じゃばら折”をご紹介します。また2で見たとおり、“町丁目番地”は有効な情報である一方、地図の枚数を増やす原因にもなっています。そこで、

大きな道路に面していない場所

迂回路を場合によっては検討しないといけない場所

その他どうしても自分にとって不安な場所

に限って、地番まで標示されるように地図を拡大して印刷するという方法もあることをご紹介します。

について

災害時に徒歩帰宅するための地図を準備してもらう工夫として、「災害時に徒歩帰宅するための地図の作成方法」の中でご紹介します。

6. その他について

「イベントの実施方法その他について、何かご意見があれば何でもお聞かせください。」との設問に対して、いただいたご意見は次のとおりです。

イベントの実施方法について

- ・ 一般の方から見て何をしているのかわかるようにした方がよい(例：“のぼり”を持って歩く。)
- ・ 途中のポイントやゴール地点で、班内で話し合う時間があればよい。
- ・ 班内の連帯感を高めるために、出発前に自己紹介をしたらよい。
- ・ もっと年齢に配慮して欲しい。

といったご意見をいただきました。次回、同様のイベントを行う際に、参考にさせていただきます。

その他、「バス停に通し番号をふったらよい。」など行政その他機関に対して、色々なご提案等をいただいております。それらについては、各々の機関に伝えておきます。

7. 最後に

以上がアンケート結果です。ご協力に対しまして、改めてお礼申しあげます。